



■ 資材 (たねダンゴ15~20個分)

- ・赤玉土 (粉みじん) 3割
- ・ケト土 7割
- ・鉢皿やビニール袋 (用土を捏ねる時に使用)
- ・珪酸塩白土 (粒状)
- ・珪酸塩白土 (粉末状)
- ・肥料 (緩効性)



■ 花材 (タネ) 春まき用

- ・ホウセンカ (ツリフネソウ科)
- ・アスター (キク科)
- ・センニチコウ (ヒユ科)
- ・大輪ジニア (キク科)
- ・クレオメ (フチョウソウ科)
- ・ケイトウ (ヒユ科)



■ 使用したタネの大きさ



ホウセンカ



アスター



センニチコウ



大輪ジニア



クレオメ



ケイトウ

## ■ 指導内容と目的

- ・種を蒔く方法には色々な方法があることを知る。
- ・小さい種から芽が出て花が咲くまでの過程や、植物の生命力を知る。  
皆で行う土いじりの作業で、会話を楽しみ、仲間とのコミュニケーションをはかる。
- ・芽が出るときの様子や花が咲く時の様子を想像し、よく観察をする。

## ■ 対象者への配慮

- ・土を直接手でこねるので手に傷がある時や、アレルギーなど皮膚の弱い場合などは手袋を使用する。（ケト土は爪の中に入ると取れにくく、色がついたりするので、手袋を使用するほうがよい。）
- ・出来上がったたねダンゴは、あんこ玉やチョコレートのように見えるので子供が誤って口に入れないように注意すること。

## ■ 1. 指導計画・スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
<春から活動を開始する場合(秋に開花)>						<秋から活動を開始する場合(春に開花)>							
	5月～6月 たねダンゴづくりと植え付け					10月～11月中旬 たねダンゴづくりと植え付け							
水やり追肥・除草などの管理						水やり追肥・除草などの管理							
		6月下旬～9月末頃 開花								1月下旬～4月末頃 開花			

## ■ 2. 事前の準備

- ・園、学校、施設との打ち合わせ
  - 日時の確認、時間配分の確認
  - 搬入経路の確認
  - 作業場所の確認
  - 花壇、コンテナの確認
  - 参加人数の確認
  - 手袋使用、有無の確認
  
- ・花壇の時は事前に土づくりを行う
  - 良く耕し肥料を加えておく
  
- ・資材の手配
  - 種
  - ケト土、赤玉土の粉みじん（芝の目土）
  - 珪酸塩白土（粒状、粉状）、肥料

## ■ 3. 当日の流れ

時間 9：00～10：00

資材の搬入、材料の準備

赤玉土の粉みじんがない時は、赤玉土をつぶして作る

各テーブルごとに作業を行う場合は、各テーブルに人数分のケト土、赤玉土、種などの材料を配布しておく。全員分まとめて作る時は一箇所に場所を決めておく



時間 10：00～11：00

10：00 挨拶 たねダンゴの説明

10：10 たねダンゴの土の作り方の説明と実演

土の実習、土が出来たら、キンカンぐらいの大きさに分ける

10：25 種のつけかたの説明と実演

実習

10：40 花壇（コンテナ）に植え付け、水やり

#### ■ 4. 具体的な手順

「タネだんご」の説明

- ・これから実践する内容を簡単に説明する。

##### ●種の説明

- ・花の名前や花の特徴

写真などを用意して説明すると良い。

※黒板やホワイトボードを使用する。

##### <春蒔き種>

ヒヤクニチソウ、コスモス、マリーゴールド、ハゲイトウ、クレオメ、センニチコウ、帝王貝細工など

##### <秋蒔き種>

ヤグルマギク、ハナビシソウ、ムギセンノウ、カスミソウ、ヒメキンギョソウなど

#### <タネだんごの作り方>

##### ①赤玉土とケト土を混ぜる

- ・素手、又は、薄手のビニール手袋を着用するとよい。
- ・少量の水を足しながら混ぜていく。
- ・ボソボソしたり、ベチャベチャしたりでは土がだんご状にまとまらない。やわらかさの目安は、少し硬めのダンゴが作れるぐらい。混ぜるだけでなくまとまりがよくなるまでよく練る。



##### ②良く混ぜたら小さく分ける

- ・キンカンぐらいの大きさに分け、丸める。

##### ③丸めたダンゴをつぶして、中に肥料を一つまみ入れる。

- ・緩効性肥料をいれます。
- ・緩効性肥料とは、徐々に溶けだし効果が長続きするように工夫された肥料です。特に根から出る酸で徐々に成分が溶けだして効果が持続するタイプがよいでしょう。



## ④ 粒状の珪酸塩白土を一つまみ入れる

※珪酸塩白土は、植物に必要なミネラルの補給、土の浄化、根腐れ防止に役立つ。  
粒状（ダンゴの中に入れる）粉状（ダンゴの周りにつける）の2種類を使う。



## ⑤ 団子状に丸め、まわりに種をつける。

・種は、すべてまとめてトレイなどに入れておき、トレイの中に転がすようにして、数種類が均等にダンゴに付着するようにする。



## ⑥ 種の着いたダンゴのまわりに珪酸塩白土の粉末を付ける

・珪酸塩白土を付ける理由を説明

植物の生長に必要なミネラルの補給や根腐れ防止に役立ちます。

珪酸塩白土をまぶした白いダンゴは、花壇に植え付ける際に、どこに置いたのかが良く分かる。



### <花壇への植え付け>

- ⑦花壇など植え付ける場所の土をならし、枯葉や石などを取り除いておく。  
植え付ける前には、花壇の土をよく耕す。  
元肥として、緩効性肥料を混ぜる。



- ⑧たねダンゴを置く間隔  
春蒔きは40センチ間隔  
秋蒔きは30センチ間隔にする。



- ⑨たねダンゴを手のひらで軽くつぶして置いていく。  
植え付けるとき、たねダンゴは手のひらで挟み軽くつぶす。  
つぶすことにより花壇やプランターの土に良くなじむ。又つぶすと、まわりに筋が入ることにより根がダンゴ内に入りやすくなる。



- ⑩植え付け後は、たっぷりと水やりをする。



6月15日植え付け



7月中旬の様子



8月上旬の様子



9月上旬の様子

## ■ 親子でコミュニケーション「たねダンゴづくり」

家庭内で、子どもと一緒にたねダンゴを作ることができます。

雨天の時には、室内でたねダンゴづくりができます。晴れたら屋外の花壇やプランターに植え込みます。植え付けるまでは、乾燥しないようにビニールの袋などに入れて保管をします。

(暖かい時期はすぐに芽が出てしまうので、植え付けまでに数日かかるときは、冷蔵庫などの冷暗所で管理します。)



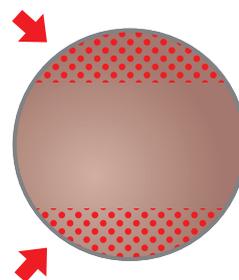
土を丸めているところ  
(キンカンぐらいの大きさに)  
子供は泥遊びが大好き。  
手できくるくる回して嬉しそう。



肥料と粒状の珪酸塩白土をダンゴの中に入れます。(土の状態を整えてくれます)



種をつけたところ  
(2か所につける)



出来上がったたねダンゴの周りに、粉状の珪酸塩白土を付けて、中と外から土を整える。



たねダンゴが白くなり、どこに植えたかが分かりやすい。

植えたタネの名前とタネの袋を一緒にプランターに挿しておくとな何の花が咲くかがわかります。



■ 大型プランターでの栽培例



平成27年5月28日



平成27年6月5日



平成27年6月28日



平成27年7月9日



平成27年8月19日



平成27年9月17日

## ■ 地域グループでのたねダンゴづくり

地域の仲間やグループで、一緒に楽しく話をしながら「たねダンゴ」づくりをしましょう。予算が少ない時は、すべての材料を購入せず、用土と種だけで作ることもできます。



平成27年11月14日  
たねダンゴづくり



たねダンゴに種を付ける様子

たねダンゴを植えるプランターや花壇は良く耕し、植えてあった根や石などは取り除きます。元肥を入れよく混ぜ合わせます。

長い間石灰を入れていないときは、苦土石灰を蒔きます。

(必ず袋に書いてある分量を守ること)

肥料は化成肥料を施します。たねダンゴを植え付ける1週間前に行うといいでしょう。

たねダンゴには、珪酸塩白土を使用していませんが、種のもつ生命力で芽が出ています。太陽の光を良く当て、乾いたらたっぷりと水を与えて管理をすれば綺麗な花が咲くことでしょう。花のつぼみが出来てきたら追肥をします。



フラワークラブの皆さん



平成27年3月10日の様子

## ■ 6. 実施する上でのポイント

- ・種の種類と購入先

種は、園芸専門店などの種の種類が豊富に揃えてあるところで購入すると良い。

(背の高い切り花用を購入すると良い)

- ・たくさん花を継続して咲かせるには、元肥と追肥を忘れずに施す。
- ・除草を小まめに行う。

## ■ 7. 参加者からの感想

- ・土をまるめてお団子を作ったり、みんなで栽培活動できるのが楽しい。
- ・簡単に種まきができ、開花後の見栄えもすばらしい。
- ・色々な植物や花を楽しむ手法がよい。
- ・親子で一緒に楽しみながら花壇作りができる。色々な花を植えてみたい。